

スポーツ少年団指導者の危機管理

福島県小学生バレーボール連盟

平成23年4月23日

【スポーツ少年団地震対策について（バレーボール競技）】

指導者はこんな場合・・・・・・・・・・どうするでしょう。

いつもこんなことに心がけてください。 → 安全配慮義務、想定外を考えて

1 ルールを守る指導を常に行う。

- 人の話をよく聞く。集合、整列はすばやく行う。靴はきちんと並べておく。
衣服や荷物は整頓しておく。呼ばれたら返事をする。

2 子どもに怪我をさせない心構えで指導。

- 使用する体育館施設を点検をする。出口の確報。
- 子どもの身体面や精神面の体調をつかむ。
- 救急用具、懐中電灯の準備

3 危険を感じたらすぐ対応

- 練習日稷、時間帯、場所が団員にとり無理していないか。
- 指導者・保護者の増員

4 活動の中止を恐れない

- 危険事故発生の回避手段
- 天候、災害、体調不良に伴う計画の変更。

5 救急活動の安全指導マニュアル作成

- 家庭への連絡・連絡網
- 医療機関への連絡（かかりつけの病院）
- 施設管理者への連絡（校長・教頭）
いつ・どこで・だれが・なにを・どうしたか
- 緊急避難経路

安全管理・安全指導に関して、

保護者と指導者の協力態勢が不可欠です。

指導者だけが先走りしないこと。保護者と相談して練習日程を組む。

■ 夜の練習中、地震が発生したら

1 初期行動

- さわがない、勝手に外に出ない 「落ち着いて、静かに」
- 指導者の指示をよく聞く
- 恵からはなれる 「窓からはなれて」
- 机の下にもぐったり、カバンで頭を守る 「机の下」「常にかぶれ」

2 避難行動

- 長袖、長ズボンを持つ・着る
- 集合し、すばやく避難する 「並んでついてきなさい」
- 押さない、しゃべらない、もどらない
- 決められた場所に集合、点検する 「点検します」

3 M7～M8が連続してきたら 上記1や2のようにゆっくりはできません。

- 天井からの落下物、ライトがきれる。真っ暗。ライトが落ちる
- 窓ガラスが割れる。道具や器具が倒れる。ボールが転がる、ドアが開かない
- 天井が落ちる、建物が倒れる、火災、爆発、山崩れ、がけ崩れ、河川が切れる
- 子どもたちがパニック状態

→指導者のとっさの判断が命を救います 懐中電灯を忘れずに

□地震への不安

○子どもたちの中には

- ・ああ地震がくるかも知れない、こわいなあ、練習に行きたくない。
- ・夜の地震はこわい。昼の練習だといいいけど。
- ・指導者のほかにだれもいないの、地震がきたらどうしよう。
- ・おかあさんたちもいてほしい

○保護者の中には

- ・余震がときどききているが、いつくるかとても心配。今日も練習あるの。
- ・夜の練習中に地震がきたら、子どもたちが心配だ
- ・せめて、余震が治まるまで練習を少しひかえてほしい。
- ・指導者にいつもまかせっぱなしだからなあ。強くは音えないしなあ。

※ 戸外でやるスポーツ少年団も放射能にせき換えて考えてください。